

## 幕末明治維新

この度、副館長の松尾和彦氏が「死に様に見る幕末明治維新」と題する歴史研究書を上梓しました。

今回の内容は幕末明治維新を誰もが迎える最期を見ることによって探っていくものになっています。

よく言われることですが「生き様は死に様」であって「死に様は生き様」です。人は生きてきたようにしか死ねないものです。この時代の人々も例外ではありません。しかし歴史小説家の書いている内容はどうでしょう。人の死を「壮絶な最期を遂げた」とか「従容として死地に赴いた」といった具合に綺麗ごととしてとらえています。

中でもひどいのが幕末明治維新时期です。この時代は大変革期であったために、それまでは考えられなかったタイプの人間が多く現れました。だからこそ歴史研究家、作家が好んで取り上げています。美談やロマンに溢れていた時代であったかのように書いています。それは勝者となった薩摩長州方も敗者となった旧幕府軍も同じです。そして勝者は優越感から、敗者は被害者意識から、この時代をとらえています。

実際の歴史は、綺麗ごとでは語れないものです。優越感、被害者意識から抜け出さない限り本当のことは判らないものです。

今回の作品は天皇皇族、大名家老、薩摩長州、土佐、会津、新撰組など九十九の死に様から幕末明治維新をとらえたものとなっています。彼らの死に様を「壮絶な最期を遂げた」とか「従容として死地に赴いた」といったステレオタイプで語ったりはしていません。真実を知ることこそが歴史を知る内容となっています。興味のある方々にご一読を勧めます。

一般小売書店でも取り扱っていますが、今回の注文先は下記の通りです。またアマゾンなどでも取り扱っております。

(株)叢文社

東京都文京区関口 1-47-12 江戸川橋ビル

[TEL:03-3513-5285](tel:03-3513-5285)

FAX:03-3513-5286